

# アイランズ・カップ2009 第10回大崎上島4時間耐久レース 全国大会規則書

## 特別規則書

### 基本概念

本大会は、海に面している大崎上島の特性を生かし、一般的に言われている水上バイク、即ち「パーソナル・ウォーター・クラフト」(PWC)を使用した、「地域連携」・「地域興し」を主たる目的として開催される。

故に、一般的に行われている競技性を重視した「レース」とは異なり、多少それを犠牲にした形式を採用する。

「競技性を犠牲にした形式」とは言え、ジェット・スポーツの危険性は減少しないことを十分認識し、各競技者・関係者の安全確保を努める。

又、本大会が地元各団体・後援・協賛各社の多大なご協力・ご支援を得ていることを考慮し、円滑に大会運営を図るためにも各競技者・関係者に健全な一社会人として常識のある行動をとり、大会本部に全面的に協力することを要請する。

### 通則

#### 1、特別規則書の制定

この「特別規則書」は日本ジェットスポーツ連盟(以下「JJSF」と略す)の定める「ジェットスポーツ国内競技規則」に準拠し、「大崎上島4時間耐久レース」を安全、公正、円滑に実施するため、「大崎MSC」が特別に制定したものである。

#### 2、特別規則書の適用

この「特別規則書」は、「大崎上島4時間耐久レース」に適用され、この競技に参画するすべての者は、本規則を遵守しなければならない。

### 競技の名称

アイランズ・カップ2009「第10回大崎上島4時間耐久レース全国大会(略称・大崎4耐)」

### 開催日

2009年7月12日(日)

(備考)

大会当日の潮位

中潮	満潮	0:57	+366cm	12:41	+306cm
	干潮	6:59	+126cm	18:50	+64cm

### 主催

大崎MSC

## 協賛

大崎上島町。大崎上島町観光協会。(株)カワサキ・モータース・ジャパン。(株)ヤマハ発動機。(株)BRP・ジャパン。広島県共済(協)。フォート・マイヤース。  
(有)エム・シー・エム・マリンサービス。(株)二葉。プレジャー。マリンショップライン。  
(株)ワールド・ジェット・スポーツ・マガジン社。ホット・ウォーター・スポーツ・マガジン。海の月間実行委員会。フラワーショップ純。(有)シスコム。(株)エネルギー・コミュニケーションズ。

## 後援

NHK 広島放送局。(株)広島ホームテレビ。(株)広島テレビ。(株)中国放送。テレビ新広島。  
(株)広島エフエム放送。中国新聞社(株)。(株)プレスネット。

## 協力

大崎上島町商工会。大崎上島町商工会青年部・女性部。大崎内浦漁業協同組合。JA 広島ゆたか。JA 女性部。呉海上保安部。呉地区小型船舶安全協会。日本水難救済会広島支部。ハイパー・エアー(大崎上島町ウェイク・ボード・クラブ)。FF アイランド大崎会。(株)ファインシステム。J RMS 実行委員会。マリンウエーブ竹原。竹原広域消防署。木江警察署。大崎上島町在住有志。

(以上、昨年実績)

## 組織

運営は、「大崎 MSC」がこれにあたる。

大崎MSC (大崎モーター&マリンスポーツクラブ)

〒725 0301

広島県豊田郡大崎上島町中野

大崎上島町商工会内

0846-64-3505

大会名誉会長	大崎上島町長
大会実行委員長	梅木 達也(競技委員長)
副実行委員長	谷本 徳久(審判委員長)
大会本部長	先田 金生
燃料管理委員長	松岡 泰仁
広報委員長	中田 光
救護班	岡本 敬和

## 日 程

1、エントリー受付開始日	4月10日(ホームページにて出場申込書等をダウンロード開始可能)
2、エントリー書類受付締切	6月10日必着(先着55チームで受付終了)
3、参加受理書・公式通知発送	6月20日 発送予定
4、当日集合受付開始及び締切	7月12日 7:30~8:45
5、船検	7:45~8:50
6、開会式	9:00~9:20

7、ライダーミーティング	9：20～9：50
8、スタート	10：00
9、ゴール	14：00
10、アトラクション（未定）	14：20～14：50
11、結果発表・表彰式	15：00～15：30
12、大会会場清掃	15：30～

## 申込登録及び費用

### 1、エントリー

4月10日以降、所定の出場申込書、誓約書、健康管理届、主催者の要求する資料を送付後、エントリー費を銀行振込にて申し込む。

申込受付終了は6月10日。

先着55チームを越えた時点で申込受付は終了する。

### 2、エントリー方法

「参加申込書」に必須事項を全て記入し、大会事務局まで郵送すること。

上記の必須事項に記入漏れがあった場合、「エントリー」を受け付けない。

大会事務局に「参加申込書」が到着した順番に、「エントリー費」の振込先を通知する。

指定された期日までに「エントリー費」の振込を済ませること。

事務局が入金を確認した時点で、「エントリー」の受付が終了する。

指定された期日までに「エントリー費」の振込が確認できない場合、「エントリー」を辞退したものとみなす。

「参加申込書」を未提出で「エントリー費」の振込をしても「エントリー」は認められない。また、その行為は「大崎MSC」への寄付とみなし、返金も行わない。

規定されたチーム数に達した当日に、「参加申込書」が事務局に到着したチームは、厳正な抽選によってエントリー受け付け順位の確定を行う。

抽選で選ばれたチームに、「エントリー費」の振込先を通知し、上記と同様の手続きを経て「エントリー」を確定する。

「エントリー」の事務的な混乱を避けるため、上記以外の「エントリー方法」は、規定していない。

新規に競技艇を購入予定で、エントリー開始時に「登録」等公式の手続きが終了していないチームは、購入予定の競技艇で「エントリー」の申込が出来る。但し、大会開催日の1週間前までには、「エントリー」に必要な事項を全て大会事務局まで通知すること。必要事項が通知されていないチームは、「オープン参加」となることもある。その場合、当該チームは全ての章典対象から除外する。

のエントリー受付終了後、何らかの理由で「競技艇」を変更する場合、クラス変更を伴わない場合、大会開催日の1週間前までに、変更する旨を大会事務局まで申し出ること。クラス変更を伴う場合、変更する旨を大会事務局に申し出ても「オープン参加」となることもある。その場合、当該チームは全ての章典対象から除外する。

### 3、エントリー費

1チームにつき22,000円

1チームの「ライダー」は4名までとする。

「チーム関係者」は無料。

「チーム関係者」は、人数の制限を特に規定しない。

#### 4、昼食代

昼食を希望する者は、昼食代として1名につき1,000円を別途送金すること。

#### 5、エントリー費の返還

当日の天気予報で「警報」が出て大会を中止した場合、エントリー費の返還はしない。  
また、何らかの理由で、急遽大会が中止になった場合も、同様にエントリー費の返還は行わない。

大会開催日1ヶ月までにキャンセルをした場合、昼食代を含めた全額を返還する。(但し、振込手数料を除く。)

大会開催日2週間前にキャンセルをした場合、昼食代を除くエントリー費の半額を返還する。(但し、振込手数料を除く。)

それ以後のキャンセルの場合、エントリー費の返還はしない。

大会受付時まで、主催者が参加拒否をした者には全額返還する。(但し、振込手数料を除く。)

#### 6、エントリー費に含まれるもの

- ・主催者が提供するもの。
- ・食券(エントリー申込時に昼食を発注した人に限る。)

### 参加者及び参加資格

#### 1、参加者の規定

本競技に参加する者を以下のように規定する。

##### チーム監督

各チームから1名、代表者としてそのチームを統括する。

主催者側から意見を求められた時、チームの意見を代表して述べる事が出来る。

1人で数チームの監督に就任することを妨げない。

「ライダー」・「チーム関係者」から就任することも妨げない。

##### ライダー

競技艇を操縦する者。

##### チーム関係者

競技艇を操縦できないが、ライダーをサポートしライダーに準拠する資格を有する。

2、本競技に参加するライダーは、参加申込を行う時点において、参加艇を運転するに有効な船舶操縦免許を取得していなければならない。(旧5級小型船舶操縦士免許以上若しくは、新しい免許制度における特殊)

3、本競技に参加する者は、競技に耐え得る体力、精神力、及び操縦技術を有すると自認できるものであること。

4、未成年者の参加は保護者の承認及び署名捺印を要し、責任の持てる同行者がいること。

5、本競技に参加する者は、エントリー用紙類の当該欄を全て正確に記載すること。

ライダーは船舶操縦免許(写真のある面)、健康保険の表裏のコピーを添付すること。

### 章典の対象となるクラス

1、2ストローク UNDER 800ccクラス(2st UNDER CLASS)

1人乗り以上の水上バイク(PWC)で、エンジンが2ストローク・排気量が800

- c c 以下のクラス。
- 2、2 ストローク OVER 800cc クラス (2st OVER CLASS)  
1人乗り以上の水上バイク (PWC) で、エンジンが2 ストローク・排気量が800cc 以上のクラス。
  - 3、4 ストローク NA クラス (4st NA CLASS)  
1人乗り以上の水上バイク (PWC) で、エンジンが4 ストロークで過給器が無いクラス。排気量によるクラス分けは行わない。
  - 4、4 ストローク CH クラス (4st CH CLASS)  
1人乗り以上の水上バイク (PWC) で、エンジンが4 ストロークで過給器が有るクラス。排気量によるクラス分けは行わない。
  - 5、レディースクラス  
全てのライダーが女性のみで構成されたチームは、自動的にこのクラスにエントリーされる。  
但し、参加チームが3チームに満たない場合は、クラスの設定は行わない。

## 参加艇及び装備

- 1、参加艇  
受付申込締切日 (6月10日) までに登録された艇に限る。  
日本小型船舶検査機構 (以下、「JCI」と略す。) 発行の有効な「船舶検査証書」、  
「船舶検査手帳」を有すること。  
船検時に「船舶検査証書」「船舶検査手帳」の提出を求める。
- 2、艇改造の範囲  
参加艇は原則として改造は認められないが、公式な「改造申請」を提出し「JCI」  
によって認められた艇に関しては参加を許可する。  
その艇は、船検時「改造申請届」を提出すること。  
最も重要な件は、純正サイレンサーを装備しサイレンサーの機能が保持されていること  
であり、周辺環境に優しいことを要求する。
  - 2-1、改造が許されない箇所  
サイレンサー (サイレンサーはその機能が保持された純正品に限る)  
ウォーターボックス
- 3、ステッカーの貼付義務  
参加艇に関しては、主催者が用意したゼッケンの貼付を義務付ける。  
大きさは、A4版で確認し易い競技艇の両舷前部3箇所に貼付すること (別紙参照)。  
又、広告ステッカーを貼付する場合もある。  
これらの貼付物は、開始から終了までの間、完全な状態で保持されていなければならない。
- 4、固定ゼッケンの振り分け  
2004年大会より下記の条件を満たすチームには、「固定ゼッケン制」を採用する。
  - 4-1、固定となるゼッケン
 

「01」	前年度、UNDER 800クラス優勝チーム
「1」	前年度、OVER 800クラス (含む、4st) 優勝チーム

#### 4 - 2 , チーム名

「チーム名」は前年度と同一のものであること。

#### 4 - 3 , チーム構成のライダー

前年度と異なるライダーで「チーム」を構成することを認める。

### 服装及び装備品の規定

#### 必須の装備品

- 1、ライフジャケット（各ライダー）
- 2、時計（各ライダー）
- 3、音響信号器具又は笛（各ライダー）
- 4、ロープ（各競技艇）
- 5、信号紅炎（各競技艇）
- 6、靴（各ライダー）
- 7、ヘルメット（JIS規格B種以上若しくは、各PWCメーカーが作製した物・各チーム最低1個・走行時、ライダーは必須）
- 8、全身を覆う衣類（各ライダー・安全上、なるべく肌の露出の少ない物を推奨する）  
（例）ウエットスーツ、バイク用パット付ナイロンパンツ等、
- 9、消防法に適合した携行缶（20ℓ以下・各チームに1缶以上）  
（携行缶を用意できないチームは、参加を拒否することもある）

#### 推奨する装備品

- 1、脊椎パット（各ライダー）
- 2、グローブ（各ライダー）
- 3、カッターナイフ（各競技艇）
- 4、携帯電話（各競技艇、若しくは各ライダー）

### 競技方法

#### 1、コース

大崎上島町・大串～来島（往復約2.5海里）間の周回コースとする。（反時計廻り）

その後は大会本部の設定したコースを走行する。

ブイ（浮標）によりコースを作る箇所もある。

コース上に障害物を設定する場合もある。

主催者は天候の変化、その他の理由により予告なくコースを変更できる。

その場合はオフィシャルの合図、案内表示板、又は口頭で伝える。

#### 2、周回数

周回数は、オフィシャルの用意した周回ボードでチェックすることでカウントする。

大会本部前を通過した時点で、周回のカウントを行う。

このことに関する抗議は一切認めない。

#### 3、ピット

コース上の大串海岸に指定された場所でピットを開設できる。

#### 3 - 1、ピットへの進入、離脱

ピットへの進入、離脱は指定された範囲内（コントロールゾーン）で充分減速すること。

この時、安全を確保するため滑走を禁止する。

尚、ピットの侵入・離脱のスピードは「ライダーズ・ミーティング」の時に発表し、オフィシャルが模擬走行を行うことで、各ライダーのスピードに関する意思統一を図る。

### 3 - 2、ピットでの作業

ライダーの交代（競技中は自由に登録したライダーの交代ができる。）

ガソリンの補給

オイル等の補給

破損箇所等の修理

## 4、ガソリンの管理

ガソリンの管理は主催者が行い、安全上の理由でピットにおけるガソリン

補給以外の行為、即ち、ガソリンのピット内の保持等は認められない。

補給後に余ったガソリンは直ちに管理施設まで返却しなくてはならない。

これに違反した場合は、「ペナルティ」とする。（後述ペナルティ2 - 4を参照）

競技関係者は、各自でガソリンを持参、若しくは、有償のガソリン券を購入する。

各自でガソリンを持参し準備する場合、持参したガソリンは、大会本部が指定した保管場所に保管すること。（下記の5、を参照）

## 5、各チームが持参したガソリンの管理

指定された場所以外で「持参したガソリン」を保管した場合、そのチームは失格となる。

「持参したガソリン」の場合、指定された保管場所からピットまでの運搬作業も各自で行うこと。

その運搬作業も消防法に適合した携行缶で行うこと。

大会本部は各チームが「持参したガソリン」の運搬義務を負わない。

尚、保管場所から大会会場までの距離は、最短でも約500mある。又、安全上の理由から、大会会場付近の道路の一部は、大会関係車両以外の通行を禁止する。

## 6、クイックチャージャー（給油機）について

全てのクイックチャージャーの使用は認めない。

## フラッグ

### 1、通則

このレースでは、JJSFの「ジェットスポーツ国内競技規則」に準拠し、以下のフラッグの規定を行う。各ライダーはその規定する義務に従わなければならない。

その義務に従わないライダー及びそのチームは失格となる。

### 2、フラッグの意味及びライダーの義務

イエローフラッグ

意味：コース上に危険がある。

ライダーの義務：安全な方法（減速、追い越し禁止）でレースを続行する。

意味：落水者がコース上に存在する。

ライダーの義務：監視艇が笛を吹き、イエローフラッグを振るのを発見した場合、

直ちに以下の行動を取り、安全にレースを続行すること。

明確に減速を行い、「イエローフラッグ」を確認したことを監視艇・オフィシャルに知らせる為、左手を挙げる。

落水者が無事保護されるまで、追い越しを禁止する。

上記・の義務は、ライダーが監視艇の笛、イエローフラッグを発見した時から開始し、落水者及びその競技艇の両方を無事通過した時点で終了し、その後は通常のレースを続行する。

上記の「左手を挙げる」ことは、上記に定められた間、続行すること。

上記～の行動が確認されないライダーは、「周回数の減算、5周」のペナルティとなる。

数度に渡って、上記～の行動を取らないチーム及びライダーは、「失格」となり、今後、本大会のエントリーを拒否する。

上記の「ペナルティ」は、レース終了後、「周回数の減算」を行いレース途中では、行わない。故に、「最終結果」は、レース中発表される成績とは、異なることもある。

上記の「失格」は、「ブラックフラッグ」及び、場内放送によって発表される。

#### レッドフラッグ

意味：レースの即時中断。

ライダーの義務：安全な速度まで減速し、周囲に注意しながらスタート地点まで戻らなければならない。

#### ブラックフラッグ

意味：失格。

ライダーの義務：当該ライダーは直ちにコースを離れてピットまで戻らなくてはならない。

当該チームは、レースを続行することはできない。

違反が悪質な場合、当該チーム及び当該チームの各ライダーは、以後のエントリーを拒否する。

#### チェッカーフラッグ

意味：レースの終了。

### レースの再スタート

#### 1、通則

上記の「レッドフラッグ」で大会が中止され、大会本部が「再スタート」が可能と判断した場合、下記の方法でレースが再開される。

#### 2、再スタートの方法

レース中断までの順位を大会本部が確定する。

順位確定後、指定された再スタート地点へ各チーム移動する。

順位上位チームから5秒毎にスタートし、レースを再開する。

スタートの合図は、大会本部が放送・フラッグ等を使用して行う。

### ペナルティ



## 1、通則

ペナルティは、オフィシャルの通告によって行われる。

## 2、ペナルティの規定

### 2 - 1、ミス・ブイ

最終周回タイムへの加算 3 分

#### 2 - 1の補足

「ミス・ブイ」とは、コース上に設置されたブイ（浮標）を規定されたコースより内側、又はそのブイ上を走行した場合のことをいう。

### 2 - 2、ピット進入、離脱時の追い越し（コントロールゾーン内）

周回数の減算 3 周

### 2 - 3、妨害及びスポーツマンらしからぬ行為

周回数の減算 5 周

### 2 - 4、オフィシャルの指示に反する行為及び言動（ピット内のガソリンの保持も含む）

周回数の減算 5 周又は失格

### 2 - 5、海上交通法違反

海上保安庁による摘発・・・・・・・・失格

オフィシャルによる摘発・・・・・・・・周回数の減算 5 周又は失格

### 2 - 6、持参したガソリンの指定場所以外の保管・管理

失格

## 保安機能の逸失によるペナルティ

消音機能の低下及び逸失・・・・・・・・最終周回タイムへの加算 30 分又は失格

#### 2 - 1 ~ 2 - 5の補足

「周回数の減算」とは、レース終了後、周回数を減算するペナルティのこと。

## スタート方法

「ル・マン式スタート」を採用する。

即ち、第一ライダーが定められたスタート地点までテザーコードを持って行き、その他のライダーが競技艇を保持する。

スタート合図で全ライダーが競技艇まで走っていき、エンジンを始動、コースを走行する。

エントリー数によっては、30秒毎の時差スタートを採用する場合もある。

## ゴール方法

ゴールは4時間経過直後、大会本部前の周回チェック・ポイントを通過した時点でレースは終了する。

ゴールの合図は、上記の「チェッカーフラッグ」で行う。

「チェッカーフラッグ」を振られるまでは、レースは継続中である。

ゴール後はレースを終了したチームから順次減速し、レースの妨げにならないよう十分注意してピットに帰ること。

## 順位の決定

- 1、4時間経過した時点において、走行中で周回数が多いチームを上位とする。
- 2、負傷者の緊急を要する救助のため、競技の続行が不可能な場合は、これを勘案する。
- 3、同一周回の場合、ゴール時の順位、ペナルティの有無の順で審査する。

## 賞典

- 1、2st UNDER 800 CLASS.....1位～3位まで
- 2、2st OVER 800 CLASS.....1位～3位まで
- 3、4st NA CLASS.....1位～3位まで
- 4、4st CH CLASS.....1位～3位まで
- 5、レディースクラス賞典対象 .....1位
- 6、特別賞
- 7、参加賞

## 棄権

競技を棄権する場合は主催者側が用意した「リタイア届け」に必要な事項を全て記載の上署名し、主催者に提出すること。

いかなる場合といえども、自らの判断で競技の継続を放棄しその場から立ち去らないこと。

この場合、大会関係者が捜索にかかった経費は、人数×時間計算で本人に請求が及ぶものと規定する。

## 捜索

競技中より行方不明になった場合、オフィシャルは最善の努力を尽くして捜索を行う。

原則として陸地への艇の回収作業は大会終了以降とする。

## 曳航

何らかの理由で艇の航行が不可能となり、それを監視艇、オフィシャル、又は他チームから大会本部へ連絡があった場合、オフィシャルがその競技艇をピットまで曳航する。

曳航する時の準備等は、全てそのチーム関係者が行い、オフィシャルはそのことに関して一切関与しない。

又、曳航する時、何らかの損害等があったとしても、競技者はオフィシャルに対するその損害を請求する権利を放棄すること。

尚、曳航後、再スタートすることが出来る。（「リタイア」扱いにはならない。）

## 損害の補償

オフィシャルは、その役務に最善を尽くすことは勿論であるが、競技者の負傷、死亡、艇の破損等に関しては主催者及び大会役員は一切の責任を負わない。

## 抗議

- 1、参加者は、不当に処遇されていると判断した時、これに対して抗議する権利を有する。
- 2、抗議は、抗議の対象となる事由を具体的に記述した文章に抗議料 3,000 円を添えて、競技委員長に提出しなければならない。抗議料は、その抗議が認められた場合にのみ返還される。
- 3、競技に関する抗議は、各自のゴールの 20 分以内に提出しなければならない。
- 4、審議委員会の裁定結果は、審判長により当事者に口頭で通告される。
- 5、抗議は参加者 1 名またはチームとして登録された者の連名により成立し、参加者間の任意グループによる抗議はこれを受け付けない。また、煽動行為等は全て厳しく禁止する。

### 肖像権

本大会は対価を得て公開又はテレビ、ラジオ、映画、写真等の対象にすることは総て主催者の権限であり、主催者が本大会の広報のために、参加者の氏名、写真等を使用することは自由である。

### 本規則書の解釈

本規則書の解釈は電話又は往復ハガキ・eメールで大会本部まで問い合わせること。大会当日の本規則書の不十分な理解による質問事項は断ることがある。

eメールアドレス：kamijima-ohsaki@hint.or.jp

### 禁止事項（すべて失格の対象）

- 1、競技中、所定の場所以外での喫煙
- 2、オイル・ごみ等の不法投棄
- 3、「持参したガソリン」の指定場所以外の保管・管理

### 主催者から事故発生にあつたての注意事項

- 1、海上交通安全法を遵守しての大会運営において、一般の船、地元の船の通行を優先し、事故等は直ちに大会本部に届けること。
- 2、事故は総て参加選手自らの責任で、主催者はこれに関与しないのは勿論であるが、規則書の不十分な理解で事故の責任が主催者や施設関係者にあるといった抗議はこれを認めない。
- 3、競技関係艇と事故を起こした場合、競技への参加を一時中断し、総て参加者の責任でこれを処理すること。
- 4、いやしくも競技中に、他の停泊中の艇及び構造物に接触又は衝突し、これを破損させ、その場から立ち去り競技に復活するなど極めて卑劣な行為であり、今後の大会の運営への大きな障害となるので厳に慎むこと。
- 5、競技中にオフィシャル又はオフィシャル艇との間で事故を起こした場合、選手はオフィシャル及び競技委員長がオフィシャル側の重要な過失を認めた場合を除いては、オフィシャルに対してその損害を請求する権利を放棄する。
- 6、競技中の選手間の事故は総て選手間で処理し、主催者はこれに関与しない。

### 主催者からその他の注意・お願い

- 1、ごみは各チーム持ち帰って処分すること。  
特に、オイル缶・食物類のごみは各自で処分すること。  
各自で処分しないチームを発見した場合、そのチーム及び、ライダーの今後のエントリーを拒否する。
- 2、大会本部の運営の妨げになる様な、言動・行為は厳に慎むこと。  
一般常識に鑑みあまりにも非常識な態度を取るチーム及び、ライダーを発見した場合、今後の当該チーム、ライダーのエントリーを拒否する。
- 3、大会終了後、会場の清掃を予定しています、強制ではありませんが、特に近隣から参加されるチームは出来るだけご協力下さい。尚、遠方からの参加されるチームでも、時間に余裕があるチームはご協力下さい。